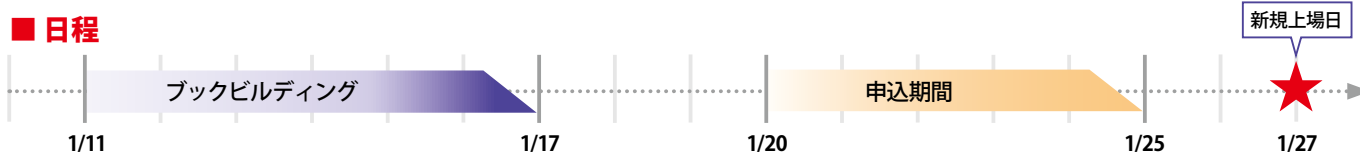


IPO銘柄 シャノン (3976・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3976	100株	公募: 15.00万株 売出: 0.00万株 (OA2.25万株)	1,300円~1,500円 (29.6倍)	東洋証券



クラウドでマーケティング業務の効率化、自動化を支援

■ 事業内容

クラウド型の統合型マーケティング支援サービス「シャノンマーケティングプラットフォーム」の開発、販売を行う。中国に子会社1社を保有。「シャノンマーケティングプラットフォーム」は、オンライン、オフラインを問わず多岐にわたるマーケティング施策の運用効率化、マーケティングデータの取得管理、活用、見える化をワンストップで実現。イベントマーケティングとして、展示会主催者や広告代理店などを対象に大規模イベント、展示会などで「シャノンマーケティングプラットフォーム」を用いた申し込み受付管理や来場者認証、アフターフォローのメール運用などを展開。タブレットなどで開催、運営支援も行っている。マーケティングプラットフォーム事業の単一業態。

■ 特徴

ダイレクトメールや電子メール、ウェブ広告などマスマーケティングが主流の従来型のマーケティングに対し、見込み客の獲得を高度化、自動化し、顧客ごとに異なる最適なコンテンツ、タイミング、チャネルで提供することができる。マーケティングオートメーションへの注目、ニーズが高まっている。シャノンでは、いち早くマーケティングオートメーションに着目し、11年2月に「シャノンマーケティングプラットフォーム」を開発。マーケティング活動の効率化、問題解決を支援してきた。

アナリストコメント

■ 定量分析

17年10月期の連結経常利益は前期比2.3倍の9,800万円を計画する。利益額の小ささは気になるものの、クラウドマーケティング分野の市場成長に合わせて拡大している。外資系クラウドベンダーの台頭もあって競争は激しいようだ。

■ 定性分析

新分野のマーケティングオートメーションで先行する企業。IPO案件としては、クラウドというテーマ性と、株主に米セールスフォースがいることから大人気が確実な情勢にある。17年の第1号案件というプレミアムも上乗せされる。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は3億円弱。ベンチャーキャピタル保有株はあるものの、軽量感の非常に強い案件として需給主導で初値を伸ばしそうだ。業態人気、17年の第1号案件であることも好材料となる。(小泉健太)

■ 類似企業

シャノン(3976・マザーズ)	予想PER29.6倍 (仮条件上限)
VOYAGE GROUP (3688・東証1部)	予想PER19.1倍
イノベーション (3970・マザーズ)	予想PER40.2倍

■ 引受証券

東洋証券、SBI証券、マネックス証券、みずほ証券、エース証券、極東証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
15年10月期(実績)	1,411	—	30	—	24	—	24.3	0.0
16年10月期(実績)	1,534	8.7	42	41.8	36	51.7	35.8	0.0
17年10月期(会社予想)	1,789	16.6	98	2.3倍	66	81.7	50.7	0.0

※ 14年10月期は17カ月の変則決算。16年10月に株式分割(1株→50株)を実施。15年10月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
14年10月期	19,977	778	214	179	214.4	27.5	—
15年10月期	19,977	869	238	179	239.3	27.5	10.7

※ 14年10月期、および15年10月期のBPSは遡及修正

大株主上位 (上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	中村 健一郎	335,000	26.97
2	永島 毅一郎	157,500	12.68
3	ジェイ・エス・ピー・エフ3号投資事業 有限責任組合	150,000	12.08
4	サンブリッジコーポレーション	60,000	4.83
5	MICイノベーション3号投資事業有限 責任組合	59,000	4.75
6	投資事業組合オリックス10号	50,000	4.03
6	NTTファイナンス	50,000	4.03
6	セールスフォース・ドットコム	50,000	4.03
9	堀 譲治	39,300	3.16
10	新生銀行	37,350	3.01

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	中村 健一郎
取締役副社長	永島 毅一郎
取締役 事業担当兼マーケティング ソリューションセールス部長兼マー ケティングアドバイザー部長	東野 誠
取締役 技術担当	堀 譲治
取締役 経営管理担当兼経営管理本 部長	友清 学
取締役	徳永 康雄
常勤監査役	中里 雅光
監査役	太田 諭哉
監査役	塩瀬 篤範

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。